様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６４３
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１８２８２

研究課題名（和文）多層ネットワーク構造形成によるフード・ツーリズムの持続性に関する研究

研究課題名（英文）Research on sustainability based on multi-layer network structure of food tourism

研究代表者
飯塚　遼（IIZUKA, Ryo）

帝京大学・経済学部・講師

研究者番号：８０７５９５２２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ベルギーの農村部を対象として現代ヨーロッパ農村におけるフード・ツーリズムを構成する多層レベルのアクターの役割と、それらの関係性についてアクターネットワークの観点を応用して明らかにした。そこでは、アクター間の機能的棲み分けが行われていた一方で、国境を越えてルーラリティの共有がなされ、それに基づく一貫したフード・ツーリズムのプロモーションが実践されていた。そのようなルーラリティに基づくネットワーク構造が、フード・ツーリズムの持続性に寄与していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究で明らかにされたフード・ツーリズム空間におけるアクター構造は、地域資源の活用や内発的な地域開発を通じたサステイナブル・ツーリズムの導入を模索する日本の農村においても参考になるものであり、農村政策や観光政策、および地域振興政策の面で活用することが可能となる。つまり、農村の活性化に資する知見の提供に寄与することができる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we applied the Actor-Network Theory to clarify the roles and relationships of multi-level actors who constitute food tourism in modern European rural areas, focusing on rural areas in Belgium. Functional segregation among actors was carried out based on the rurality shared by those actors across national borders leading to consistent food tourism promotion. A network structure based on such rurality contributed to the sustainability of food tourism.

研究分野：農村地理学

キーワード：フード・ツーリズム　多層ネットワーク構造　農村資源　ルーラリティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

生産空間としてだけではなく、消費空間としての農村に着目する「農村空間の商品化」は、ポスト生産主義時代の農村を理解するための概念として農村地理学をはじめとする研究分野において近年盛んに議論がなされている。農村地理学における農村空間の商品化とは、「ルーラリティ」や「真正性」に裏付けられた文化景観や歴史、伝統工芸、郷土食、生活様式などの地域資源の消費として捉えられており、同じく「真正性」を重要視するオルタナティブなツーリズムと深く関連してきた。とくに、郷土食を資源として消費するツーリズムはフード・ツーリズムとして捉えられ、チーズや畜産品などの伝統産業産品だけではなく、茶や酒類などの嗜好品についても、それらの生産から消費まで幅広く観光対象とされる。

そのような農村空間の商品化にもとづくフード・ツーリズムに関する研究は、観光地理学や農村地理学の分野を中心として議論されてきた。しかし、それらの研究は農村空間や観光空間の現状を捉えたものであり、観光発展の時空間展開に関する地理学的視点からの実証研究は未だなされていない。また、食料消費空間を構成するアクターの関係性や形成されるネットワークの把握についても、フード・ツーリズムの概念から捉えた研究はない。つまり、フード・ツーリズムに関するアクターのネットワーク構造を捉えることが、フード・ツーリズムの持続性を議論するうえで重要な視点であるのにも関わらず、未だ実証的に解明されていないのが現状である。サステイナブル・ツーリズムの重要性とその地域への応用が議論される現在、関連するアクターによるネットワーク形成や構造を捉えることでフード・ツーリズム自体の持続性にどのように寄与しているのかを解明することが課題となっている。そのため、フード・ツーリズムの発展プロセスと、その過程で現れてくる様々なアクターによるネットワークの関係性を捉えることに関しては、研究を展開させる余地がある。

２．研究の目的

研究の学術的背景を踏まえ、本研究では多様な農村資源を利用したフード・ツーリズムが展開しているヨーロッパの農村を対象として、フード・ツーリズムを構成する多層レベルのアクターの役割とそれらの関係性についてアクターネットワーク理論の観点を応用して明らかにすることを目的とした。

本研究の独自性は、アクターネットワーク理論のフレームワークをフード・ツーリズムに適用する点にある。アクターネットワーク理論とは、地域変容をもたらす主体とそれらのネットワークを分析する理論であり、それを通じて物質、現象、社会などの複雑な構成要素やその調整過程を議論するものである。アクターネットワーク理論においては、アクターによって構成される「グローバルな空間性」が重要視される。それは、地理学の視点からのツーリズム研究への適応性を示唆している。つまり、アクターネットワーク理論を援用することにより、従来は複雑と考えられていたアクター間の関連性が整理され、フード・ツーリズムの展開プロセスや地域へ与える影響をより体系的に把握することが可能となる。

本研究は、まさにフード・ツーリズムを通じた生産者と地域との関係づくりに貢献する基礎研究である。さらに、本研究で明らかにされるフード・ツーリズム空間におけるアクター構造は、地域資源の活用や内発的な地域開発を通じたサステイナブル・ツーリズムの導入を模索する日本の農村においても参考になるものであり、農村政策や観光政策、および地域振興政策の面で活用することが可能となる。つまり、農村の活性化に資する知見の提供を目指すという点において本研究の創造性がある。

３．研究の方法

研究対象地域としては、ベルギー・西フランデレン州のヴェストフーク郡を選定した。ヴェストフーク郡は中規模都市が点在するフランデレン地方のなかでも限られた都市周縁部農業地帯であり、ホップ栽培や酪農などの伝統的農業生産やビール醸造をはじめとする古き良きフランデレン農村の伝統産業、郷土食、農村景観、生活文化などを資源として多角的なフード・ツーリズムが展開している。また、ヴェストフーク郡では、フランデレン地域政府観光局、西フランデレン州政府観光局、ヴェストフーク郡観光局、各自治体観光局、各集落コミュニティ団体、NPOというように、異なる階層レベルのアクターがフード・ツーリズムに対してプロモーションを行っている地域であり、本研究が求める多層的なネットワーク形成によるフード・ツーリズムを捉える対象として最適な地域であるといえる。

研究のプロセスとしては、まずフード・ツーリズムを構成する生産者と消費者（観光者）、介在者としての自治体や各種観光局、地域住民からなるアクターの機能と、それぞれのアクターに

おけるフード・ツーリズムに関する取組みの発展過程について捉えた。さらに、それらを踏まえて、より詳細な定量的調査および定性的調査からアクター間の協力関係や利害調整についてのネットワーク構造を解明した。以上のことにより、従来の研究では捉えられてこなかった実証的なフード・ツーリズムの持続性について描き出すことを目指した。

４．研究成果

本研究の成果としては、対象地域におけるフード・ツーリズムの多層的なネットワーク構造について捉えることができた。そこでは、地域政府観光局や州観光局などのフード・ツーリズムを担う地域の広域アクターから、自治体観光局や各観光施設や企業などのより狭い範囲のアクターが協働しながらも、機能的なすみわけや役割分担を行うことによってフード・ツーリズムの資源が維持・強化された観光空間が形成されていた。とくに、ヴェストフーク郡の農村地域においてはそのネットワークが国境を越えて、フランスの農村部との関係性をもたらしていた。また、そのネットワーク構造の背景にはフランデレン農村としてのルーラリティが一貫して参与しており、フード・ツーリズムのあらゆる場面においてルーラリティがプロモーションされ、観光者によって消費されていた。そのように、ベルギー・西フランデレン州の農村においては、グローバルなネットワーク構造とルーラリティの参与がフード・ツーリズムの持続性に寄与していた。

さらに、参考事例としてヨーロッパやオセアニアにおけるフード・ツーリズムについても調査・研究を進めた。ベルギー・リンブルフ州のフード・ツーリズムでは、オランダとの広域観光圏を形成しており、西フランデレン州と同様のアクター群のネットワークが形成されていた。また、マルタやイギリス・イングランド北部、そしてオーストラリア・西オーストラリア州では、多様な農村資源を活用した複合的なベバリッジ・ツーリズムが展開しており、そこでもアクター群のネットワークの形成と地域それぞれのルーラリティの参与がフード・ツーリズムの持続性に影響している様相がみられた。以上のことを踏まえ、西フランデレン州農村との比較することにより、現代ヨーロッパ農村におけるフード・ツーリズムの多層的なネットワーク構造に関する議論の一般化を図ることができた。

これらの研究成果については、随時国内外の学術会議で公表し、一部は論文化もしてきた。今後はさらに今回の研究成果を論文として公表するとともに、それらをまとめ上げて書籍として出版することも目指していく。また、今回の研究で浮かび上がった課題については、議論を発展させ、今後の農村地理学研究や観光地理学研究につなげていく。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 飯塚 遼，矢ケ崎太洋，菊地俊夫	４．巻 14
２．論文標題 ビールツーリズムを通じたロカリティの再編と広域化―フランス・ノール県ダンケルク郡を事例に―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 観光科学研究	６．最初と最後の頁 87-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　2件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 Iizuka, R., Kikuchi, T. and Ota, K.
２．発表標題 New rurality and sustainability of agriculture in Japanese urban fringes: A case study of Kodaira City, Tokyo Metropolis.
３．学会等名 Royal Geographical Society with Institute of British Geographers Annual International Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Iizuka, R., Yagasaki, T. and Kikuchi, T
２．発表標題 Restructuring and expansion of rurality through the development of traditional beer culture in the Arrondissement of Dunkirk, France.
３．学会等名 3rd European Rural Geographies Conference 2023（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 飯塚 遼
２．発表標題 農村におけるフードツーリズムのフロンティア―フランデレンを中心に―.
３．学会等名 経済地理学会関東支部・関西支部合同2月例会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 飯塚 遼、矢ケ崎太洋、菊地俊夫
２．発表標題 西オーストラリア州パース都市圏における複合的ベバリッジ・ツーリズムの共生と発展
３．学会等名 2022年日本地理学会春季学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Ryo Iizuka
２．発表標題 Application of Actor-Network Theory in food tourism space: The case of the Westhoek region, Belgium
３．学会等名 Royal Geographical Society with Institute of British Geographers Annual International Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Iizuka, R., Kikuchi, T. and Phillips, M
２．発表標題 A new perspective on the landscape restructuring caused by rural gentrification in a cosmopolitanised commuter village
３．学会等名 Regional Conference of International Geographical Union（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Iizuka, R.
２．発表標題 The potential of education in tourism geography: a case study of the development and preservation of rurality in food tourism in the Westhoek region, Belgium
３．学会等名 European Association of Geographers Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 飯塚　遼
２．発表標題 世界的なムーブメントとしてのルーラル・ジェントリフィケーション
３．学会等名 首都大学東京地域共創科学研究センター・研究環共催国際フォーラム―大都市圏におけるジェントリフィケーション
４．発表年 2018年

１．発表者名 飯塚　遼
２．発表標題 ロングステイとフード・ツーリズムのフロンティア―ベルギーを中心に―
３．学会等名 ロングステイ観光学会2023年度第3回定例研究会（招待講演）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計2件

１．著者名 飯塚 遼，菊地俊夫	４．発行年 2021年
２．出版社 二宮書店	５．総ページ数 183
３．書名 観光地誌学 ： 観光から地域を読み解く	

１．著者名 マイケル ウッズ、高柳 長直、中川 秀一（飯塚遼分担訳）	４．発行年 2018年
２．出版社 農林統計出版	５．総ページ数 364
３．書名 ルーラル	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関